

KOYO IBERICA, S. A.

- 光洋イベリカ , K I B -

1. 会社概要

社 名 : KOYO IBERICA, S. A.
 所在地 : スペイン マドリード県 コスラダ市
 設 立 : 1978年
 資本金 : 721千ユーロ
 従業員 : 9 名

2. 地域の紹介

おそらく日本では一般的にスペインと言えば「太陽・闘牛・フラメンコ・ガウディ・シエスタ」などを連想されることと思います。皆さんが連想されるような情熱的でラテン気質の国というイメージは間違っていないと思いますが、それぞれが各地方の特色であり、実際は訪れる先々で異なった表情を見せてくれます。国としては今年2002年前半のEU首脳会議議長国をつとめていることからわかるように、欧州の一員として重要なポジションを占めるようになってきています。例えば2002年の欧州統一通貨EUROの導入は各国のなかでもかなりスムーズになされた国のひとつとか、主な産業は工業品輸出(自動車など)・農業畜産(オリーブ、ワイン、乳製品など)・観光産業(地中海沿岸など)です。

1975年までのフランコ総統独裁時代の後、立憲君主制に移行しフアン・カルロス1世国王により民主主義国家への転換がなされました。1992年のバルセロナオリンピック、セビージャ万博を境にさらに近代化が進みました。それでも歴史的に15世紀末まで781年間続いたイスラムによる半島支



K I Bの所在地

配の影響で、現在も特に南部のアンダルシア地方などでは、アラビア文化を色濃く残した歴史的建造物が数多く見られます。(グラナダのアルハンブラ宮殿やコルドバのメスキータなどがユネスコ世界遺産に指定されています)。またカトリック文化の影響を強く受けた美しい建築物、町並みや絵画も多く残されています。

一方で芸術的な側面も見逃せないでしょう。日本人観光客も多数訪れるバルセロナはこの国の商都であると同時に、建築家ガウディーの手によるサグラダファミリアなどの独特の建築物やミロやピカソの作品に代表される芸術的な雰囲気にあふれた魅力のある都市です。



郵便局



劇場

北部に行けばサンティアゴ巡礼が現在でも行われており、荘厳なキリスト教建築物と温暖湿潤で潤った気候は一般的なスペインのイメージとはま

た違った一面を持っています。半島北西端のガリシア地方は海産物が豊富で、海岸はギザギザに切り立っています。日本の三陸海岸などの地形をリアス式海岸と表現されることがありますが、これはこのガリシア地方の地形リアス(Rias)が語源だそうです。

言語もいわゆるスペイン語(カスティージャ語)だけでなく各地方で公用語が複数存在します。カタルーニャ地方ではカタルーニャ語、バスク地方ではバスク語といった具合です。また言語だけではなく、歴史的に自治州の独立意識が強いことも特徴です。また一部組織によるテロが頻繁に発生するという残念な側面もあります。米国で起こった2001年9月11日の大規模テロを契機に、EU首脳会議議長国として米国と連携してテロ撲滅活動に力をいれているようですが、国内での自動車爆弾や暗殺事件は後を絶ちません。一方で最近では国の発展にともない極端な少子化、移民流入問題など新たな問題も顕在化してきています。

そんなスペインの首都マドリードはイベリア半島のほぼ中央、標高655メートルの台地に位置しています。スペインの重要な産業地域として、カタルーニャ地方(バルセロナ周辺)、バスク地方(ビルバオ周辺)、そしてマドリード周辺が挙げられます。そのイベリア半島の隣国ポルトガルまでを視野に入れると、マドリードは各地域の地理的中央に位置し交通網も整備されています。



ツインタワー

日本の青森ぐらいの緯度に位置していますが、夏は暑く冬は寒いという内陸性気候であり、一日の気温差も朝と真昼では相当なものです。夏場は日中の気温が40度を超える日もあり厳しいですが、それでも日本の蒸し暑さと比較すれば湿度が低く、日陰に入れば過ごしやすい環境だといえるかもしれません。

そのような気候ゆえ、夏季は有名なシエスタ(昼寝)という習慣が生まれたのでしょう。もっと

も、最近都市ではその習慣もかなり薄らぎ世界標準に合わせつつあるようで、実際光洋イベリカも一年を通じて昼休みは1時間です(ただし、個人商店などは夏場午後2時から5時ぐらいまで一旦店を閉めるところが現在でも多く残ります)。市内は整備され、多くの美術館、博物館やモニュメントが点在しています。プラド美術館やソフィア王妃美術館など世界有数のコレクションを誇るものも少なくありません。



目抜き通り

人々は一般的に親切で、日本人にも住みやすい都市といえるでしょう。ただし英語はあまり通じません。食の面では、魚介類、米、野菜など大抵の食材が手に入り、スペイン料理も日本人の口に合うものが多いため、日本人が生活していくのに快適な都市の一つと言えます。ただし近年物価の高騰が続いており、以前の安く豊かな生活からの変化が顕著になってきています。

3. 会社の紹介

光洋イベリカは、1978年に光洋エスパニョーラとしてスペインの首都マドリードに設立されました。その後、数度の所在地変更と会社名称変更を経て、2002年12月より首都マドリード市の隣コスラダ市(マドリード県)に位置しています。



K I B 事務所

2000年に、現在の光洋イベリカへと名称変更を行いました。これは、スペインだけではなくポルトガルを含めた営業範囲を担う「イベリア半島の」という社名にする方が、「スペインの」という意味のエスパニョーラより実際の営業内容に沿うものであるという考えからです。

光洋イベリカは、イベリア半島全土(スペイン、ポルトガル)での軸受の営業業務を行っています。2002年の事業再編後、輸入販売業務全般を欧州統括センター(ECO)へ移管し、自動車をはじめ自動車関連製品、農機具、製鉄所などへの営業活動を全9名で担っています。現在の売上高17百万ユーロ(約20億円、=ECO販売)を少ない人員の利点を生かした小回りの利く営業でさらに発展させつつ、イベリア半島市場への浸透を図っています。

光洋イベリカは、2003年に創立25周年を迎えます。これまで四半世紀にわたり、行ってきた営業活動を糧に、グループのさらなる発展に寄与できるよう、顧客第一主義を掲げて営業活動に邁進していきます。

(欧州統括センター 野口 隆)